

成果報告書

所 属	地域創生課 地域おこし協力隊	報 告 者	古澤 宏明
活 動 名	高校生プロデューサー(仮)		
背 景	移住といった人口流入に力を入れるのではなく、まずは人口流出を抑え、そのあとに人口流入を図ることが有効ではないかと考えているため。		
目 的	地元「思い出」をつくり、帰省のキッカケを創出する。それにより、若者の人口流出を減らす。(※ここでいう人口流出を防ぐとはUターン者を増やすこと)		
概 要	活動期間	2020/09/01～	
	対象	茨城県立小瀬高等学校 1～3 年生	
	内容	① 高校生が市内イベント・お祭りに労働力として参加するのではなく、企画・運営など実行委員として携わる。 ② 高校生の柔軟な発想をもとにした企画や出店	
	受け入れ先	緒川七夕まつり実行委員会	
これまで の活動	・ 特別授業(1,2 年生対象) テーマ：地域おこし協力隊について ・ TT 指導 ・ 校内に地域おこし協力隊ブース設置 ・ マインドボディヒーリング×ハーブティー交流会 大宮高校 生徒3名、教師1名、小瀬高校 教師2名		
所 感	参加予定だったお祭りが新型コロナウイルス感染症の影響で中止になるなど、実際に行動に移せていないものの、特別授業やTT指導等で地域への関心は少なからず高まっている印象がある。しかし、12月に開催したイベントに小瀬高校からの参加者が0名であったように、小瀬高生が行動に移すまでには至っておらず、より一層のアピール強化をすると同時に、大宮高校との連携強化も含め、今後の展開を詰める必要がある。 昨今の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえると、今年の緒川七夕まつりも開催できない可能性がある。そのため、開催できない場合でも高校生に何かしらの経験が残るものと考えていくことが重要。 現在構想段階の「118号線沿いの飲食店・施設活性化プロジェクト」への協力依頼など柔軟に対応していこうと思う。		

成 果

- ・茨城新聞に掲載
- ・IBS 茨城放送に出演

